

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校
新聞部
修学旅行号1

北の大地北海道

日程：1日目 札幌
2日目AM 班別研修（札幌近郊）
PM 小樽市内

札幌は魅力がたくさん

2年生は9月25日から3泊4日の修学旅行を北の大地、北海道で過ごした。

体験した一部を紹介しよう。

1日目は札幌を観光した。札幌は北海道南西部に位置している大都市だ。文化や自然などが融合した魅力的な街でもある。

札幌の有名なところと聞かれると『札幌時計台』が頭に浮かぶ人があるだろう。多くの観光客はここへ訪れるが「予想よりも時計台が小さかった」という声が多い。結果的には『日本三大がっかり観光地』として知られてしまった。

現在は『札幌時計台』として知られているが、最初は時計台は設置されておらず、元々は『札幌農学校』の演武場として設計されていた。この時計台が設置されることになったのはかの有名なクラーク博士による提案が影響している。彼はアメリカの建築や文化を札幌にもたらし、その一環で時計台の導入が決まった。時計台の鐘はアメリカから輸入されたもので、現在も毎日時

→
ライ
トア
ップ
の時
計台
は格
別

を告げている。時計の針が進む仕組みはまちかで見ることが出来る。実際に行き外観だけでなく、ぜひ館内を見学して欲しい。

札幌に来るのなら『札幌ラーメン』は欠かせない。ラーメンの味付けもラーメン屋によって異なる。「様々な味を楽しみたい」、「たくさんラーメンを食べてみたい」という観光客の気持ちを具現化したのが『ラーメン横丁』だ。多くのラーメン専門店（現在17軒）が軒を連ねており、観光客だけではなく、地元の人たちからも愛されている人気スポットだ。



↑小樽市の小樽運河、建物が運河に映り込んでいる。

美しい運河とレトロな街並み 小樽

2日目午後、札幌からバスで小樽市に移動。北海道西海岸の隣接する小樽だが、その歴史は北海道開拓や日本の経済発展に繋がる。19世紀後半から日本政府は北海道の開拓を進めるため、小樽を北海道の玄関口として開発した。小樽はニシン漁や石炭中心とした産業で成功を納め、商業港として成長していく。特に石炭の輸送が盛んでそれ

に関する商社や銀行が集まる経済の中心地となった。小樽運河は明治時代を代表する建築物で、当時は倉庫として利用された。倉庫は運河を使って物資の積み下ろしが行われていた。第二次大戦後、石炭産業が衰退した。新たな産業がとして1990年代以降、歴史的な街並みや運河を保存する動きが起こり、観光都市としての道を歩み始めた。今日では小樽のレトロな街並み、歴史的建造物、運河、ガラス工芸などで知られ、国内

外問わず人気の観光スポットになっている。

昼のグルメ

新鮮な魚介類を食べられる小樽で、特に海鮮丼はおすすめだ。小樽市内にあるこじんまりとした店で頂いた一品。イクラとサーモンが飾られた海鮮丼。価格は3000円と財布には痛いけど美味だった。



↑どんぶりからあふれる海鮮丼

蝦夷の自然と歴史 北海道博物館

2日目午前には札幌近郊で班別研修。記者は北海道博物館を見学した。博物館周囲は北海道ならではの原森林を楽しむことが出来る。又、本館にはいくつかの展示物がある。北海道は北東アジアの交差点で北からは『マンモス象』南からは『ナウマン象』がやって来た。北海道がどのような場所かを感じることが出来る。

千島、樺太に住んでいた日本の先住民族アイヌは長い生活の中で独自の文化を持つ。言語や習慣もさることながら、衣装も独特だ。また地域によって異なる刺繍や文様がある。本館では2～3ヶ月ごとに衣服を入れ替えていることから四季によって違う衣服が楽しむことが出来る。

→
アイ
ヌの
伝統
衣装

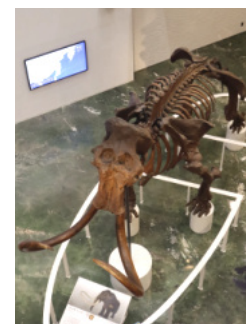


今や日本を代表する農業の生産地である北海道。郊外になると広大な田畑や牧草地が広がっている。かつては『不毛の土地』と言われた未開拓地を切り開き、水路を作るなど様々な積み重ねが北海道の農業を発展させた。本館ではその歴史を辿ることができた。



↑馬そりで田畑を耕す様子

←
マン
モス
象の
化石
展示
される



↑正面入り口

↑ずらりと並んだラーメン店

↑小樽オルゴール館